

牧之原市教育委員会 会議録

令和4年10月25日、牧之原市教育委員会が牧之原市役所榛原庁舎会議室に招集された。

この委員会に付議するため、教育長の告示した議案は次のとおりである。

付議議案

- 請願第1号 学校再編について対話を求める請願
- 報告第16号 令和4年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について
- 報告第17号 令和4年度特別支援教育就学奨励費補助金対象児童生徒の支弁区分の決定について
- 議案第14号 牧之原市萩間小学校の主任等の変更について
- 議案第15号 令和3年度牧之原市教育委員会の自己点検・自己評価報告書について

出席委員

1番 橋本 勝	事務局	教育文化部長	内山卓也
2番 澤田 衛		学校教育課長	杉田雅良
3番 吉住幸子		社会教育課長	永野智芳
4番 寺井ゆみ		学校再編推進室長	水野敬子
5番 池ヶ谷裕太		教育総務課長	佐々木悟
		教育総務課主幹	植田容子

開会時刻 午前10時15分 牧之原市役所榛原庁舎会議室

教育長挨拶

週末となると祭典やスポーツ大会、文化発表などが各地で開催され、多くの人で賑わっている。そこで、芸術の秋を楽しもうと、23日に浜松市で行われたジャズフェスティバル、コンサートに行ってきた。さすが楽器の街、駅周辺で様々な団体による演奏が行われ、多くの人が音楽に聞き入っていた。秋の一日を音楽に包まれ、心が癒された。

澤田委員の任期が11月15日と迫っており、今回の定例会が最後となる。教育委員の職から離れることになるが、牧之原市の教育の充実・発展に向けて、引き続き御支援をお願いしたい。

榛原中学校の学校訪問に続いての本日の定例会、よろしく申し上げます。

会議録署名人の決定（事務局より指名）

橋本教育長と澤田委員を指名

教育長報告

令和4年9月28日から10月25日までの主な行事について報告

議事の概要・議決事項

請願第1号 学校再編について対話を求める請願

○教育長 それでは議事に移ります。初めに請願第1号学校再編について対話を求める請願の審査をいたします。本件について請願者から意見陳述の申し出がございますので、請願第1号についてこれを許可したいと思います。ご異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」という者あり〕

○教育長 異議なしということですので、それでは請願者は、説明者の席へご着席をお願いいたします。

○教育長 それでは、初めに本日の流れを説明いたします。審査はまず、請願者からの趣旨説明後、委員からの質疑を行います。その後、担当部局からの説明後、委員からの質疑を行います。両者への質疑終了後、委員間討議を行った上で採決に入りたいと思いますが、委員の皆さんよろしいでしょうか。

〔「異議なし」という者あり〕

○請願者 録音を録ってもいいですか。

○教育長 事前に申し出がありましたので、これを許可します。

○請願者 資料配布を説明の時に。

○教育長 資料配布というのは、この後の説明のところに必要ということですか。

○請願者 はい。

○教育長 事前に配ってください。資料は全部行き渡りましたでしょうか。

それでは、請願者から請願第1号について、10分の範囲で口頭による意見陳述をお願いいたします。その後、委員の皆様から質問がありましたらお答えくださいますようお願いいたします。陳述の際、教育委員への質疑はできません。また、請願書に記載の無い内容については、審議いたしませんのでよろしくお願ひします。

それでは、請願者からの説明ということでよろしくお願ひいたします。

○請願者 陳述の前に、この時間を含めないで言いたいことがあるのですが、昨日もいろいろやり取りしましたが、自治基本条例などに書いている市民のサンプルや意見など、それを大切にすると書いてあります。

○教育長 そのことの議論はしないまま進めます。

○請願者 それで、10分という時間に制限を加えるというのは、それと対立するのではないかな。

○教育長 それはまた別の機会にお願いします。

○請願者 意見です。

○教育長 意見として伺いました。それではよろしくお願ひします。

○請願者 時間がすごく短いので短縮して使うつもりです。読み上げます。

私達は学校再編自体を、真っ向から反対しているものではありません。しかし、今回のこの計画の制定の経緯を見ると、大きな問題点があると思います。この計画は、最初から施設一体型小中一貫校を2校を作ることが前提で行われているかと思います。市民参加を謳うなら、複数案が提示されるべきだと思います。さらに、市民への情報発信、市民の意見の集約が極端に少ない。市民が関心を持つような再編計画は、2018年から詳しく情報を出すべきだったと思います。4年間で延べ4,000人の市民が参加したと書かれて報告されていますが、実数でこれは公表すべきだと思います。年間で1,000人なら、4年間で4,000人になりますよね。4万人以上の市でこのようなレベルで出されたのはちょっと変です。それから女性とか若い世代の参加が極端に少なかったのではないかと。若い世代はどのくらいあったか聞いてみたいです。それから、パブリックコメントもかなり短い時間で、広報されたときには、結論が出ているという。大切なものがあつたので、それをこんな形で処理するというのは、大きな疑問が残ります。

先ほど言った自治基本条例には、市長などは市民の参加の意欲を高めるための恒常的な参加制度を確立するとあります。それが、確立できてないと思うんです。広報まきのはらの8月号には、学校再編を知らないと言った人が43.7%。おかしいなと思うんです。知っていると言った人はどの程度知っているか、どういう考えか、全くわかりません。もっと時間をかけて焦らずに、広範な市民に参加し、意見を出す機会を持ってほしい。そんなに緊急性がある問題ではないです。以上です。あと続けて参ります。

○教育長 まだ時間はありますので、どうぞ。

○請願者 1, 2, 3, 4, 5項目ありますが、僕は担当が1と2なので、1の学校再編に対する全戸のアンケート制度を実施するというので、今、お配りしました資料は、広報8月号ですが、アンケート結果では確かに4割近くの方が知っているということですが、これを実施されたのは4月の段階でして、5月号にはっきりと学校再編の具体的に2校になるという説明をしていたので、この説明の前のアンケートだと思うんです。そうすると、片浜小学校が潰れて今年4月から僕、農業やっているので、農協が勝間田支店に集約しまして、坂部支店が潰れましたし、牧之原も萩間も潰れました。そのような状況と重なってきて、坂部が無くなって勝間田と一緒になるのかなとか、牧之原が無くなってとか、地頭方が無くなって、そういうところがだめって聞いていて4割、5割の方が、学校再編と捉えていると思うんですよ。具体的に5月の広報で2校になるということと言われたので、それからが本当にアンケート実施してほしいんですよ。それで、その下の原発に関して言えば、原発では稼働していいですかとかと言って以降、しっかりとアンケートを取っていますよね。それと同じように、学校再編でも集約を2校にしていいですかということを知ってもらえれば、本当のアンケートになるのではないかと。思うので、ぜ

ひそんなに難しくはないと思うので、今まで経験もあるし、実際問題原発ではやっているの、それと同じアンケートをぜひやってもらいたいと思います。

それと2番目としまして、その原発の関係で前市長の西原さんのときには、3.11の前から原発のことでは賛成と反対の意見を聞いて、パネルディスカッションをして、しっかりとして何回もやってワークショップも原発の中電の人も呼んだり、反対派の人を呼んだりして、しっかりとして、プルサーマル計画には賛成して3.11以後は永久停止というのを出したと思うんですよ。ですから、それと同じように、学校再編でもしっかりとした賛成派と反対派のパネルディスカッションをして、そういう歴史が牧之原市もあるので、今、市長さんも継続してそういうことをできると思うんですよ。そうすれば、公平に審議が判断できるのではないかと思いますよ。それで、遅いと言われるのですけれども。

今、リニアの問題もあるんですけれども、リニアは工事が始まっているのに、今、問題がガタガタガタガタしてますよね。そういう問題で遅いということはないと思うんですよ。まだ工事も始まっていないし、場所も決まってないし、そういう段階でもって今、ぜひアンケートとパネルディスカッションを反対派と賛成派のものをやってほしいと思うんです。

若干蛇足ですが、3.11以降、牧之原市と交流がありました現地では、残念ながら浪江町では小中一貫校が、人数が少ないということでできました。それは皆さんもご存知だと思いますが、そういう場合での小・中一貫校ということは、理解できると思うんですけれども。かといって、大きいのはどうかなっていうのをしっかりとやってほしいなと思います。これは要望です。

○請願者 中川です。よろしくお願ひします。私は3番目のこれまでのパブリックコメントに対する回答を検証する市民と行政の会話習慣の開催というところを主にお話したいと思います。お二人と重なる部分もありますけども。私自身もその陳述についてというのが資料なんですけども、今までアンケート、パブリックコメントを全部読んでみました。例えば、未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画だとか、その意見一覧ですよ。それから教職員アンケート、教職員の質問回答、387件全部読みました。読み込みました。パブリックコメントに対する回答が出ていて、ホームページもやっと出ているなと思って嬉しいと思っているんですけど、やはりその回答を読むに、市民との活発な対話というか、そういうものが必要ではないかと、やって欲しいということは思います。もちろん自治基本条例の行政、議会、市民、その3つが重なっての牧之原市のまちづくりだと思うんですよ。特に私がお話したい、自分が42年間の教職経験をした一人として述べたいんですけど、意見一覧というところに、これですけど、287件出ていましたが、この中の、No.1からNo.20は、9年間の予算を上げています。9年間だから子どもたちの成長とか、教員も系統で立てあげるといふそういう予算を上げていふし、No.23以降は効果に期待とか子どもたちの成長という意見も確かにあります。あるいは、No.57からは、複数学

級の良さとか、多様性の中で育つんだとそういう意見もありますが、あるということも事実ですが、237件全部数えたんですけど、やはり教職員の資質の能力とか、メリットがわからないとか、小5ギャップとか、わからないとか、教育効果に疑問とか、状況はこの、そういうところから、多種多様な心配だとか、先生方が心配だとか不安というものが読み取れるんですね。

○教育長 先ほどの関係で。陳述の時間が10分かかっているものですから、簡潔にお願いします。そこで一旦切りますので、まとめていただきたいと思います。

○請願者 あと4と5だからそんなに。

○教育長 それは後でまた質疑の中で伺います。そこを崩したくないのでお願いします。

○請願者 最後に、2ページ目の4番にあります。牧之原市の先生方は、本当に教育熱心で意欲的で真面目で賢い有能な先生方がいるということがわかりました。本当に安心しました。この教職員全員が、今後、教員をやっていくときに、意欲をなくさないで一生懸命、牧之原の子どもたちを育てるために働き続けてほしいなど。教職員が元気を失くすということは、子どもが犠牲になるということで教職員の多忙化や負担化も心配ですが、そういう願いがあります。ですので、パブリックコメントの回答から、教職員含めた市民と行政、教育委員会との対話集会をぜひ計画してほしいということです。

○教育長 それでは、予定されていた、説明の時間となりましたので、請願者による説明を終了します。

○請願者 委員の人は4、5を説明してないので聞きたいですよ。

○教育長 聞けていない部分は、委員から質問をします。その時にお話をいただきたいと思います。

それでは、質疑を行いたいと思います。委員の皆さんから請願者に対して質問をいたします。逆にその質問に対して回答だけをしていただき、委員に対しての質問はできませんので、あらかじめご承知おきください。

それではこれより質疑を行います。請願第1号の趣旨や理由、あるいはただいまの陳述に関しまして、委員の皆様からご質問等ございましたらお願いいたします。どの点からでも結構です。また、まだ言い足りないということがあったということで触れてない部分もあります。それについても、触れていただいて結構です。

○澤田委員 請願書を読ませていただき、1番と3番のご説明をいただいたわけですが、まだ、4番と5番を聞いていないため、それも含めてアンケートについて、2校でいいですかというようなことについて、市民のご意見をアンケートを通して聞きたい。つまり、議論を3月に決定した2校でいくこと、今は具体的にどのような用地選定とか、どのような内容の学校を作っていくかという議論に移っている段階ですが、その前の段階の議論について、いろいろ話し

合いたいということであるのかどうか。4番、5番の説明も含めて簡潔にお話いただければありがたいです。

○教育長 それではお答えください。

○請願者 4番ですが、市民が推進する有識者第三者機関による学校再編計画の検証会議の設置を求めます。私、柴本です。行政に都合の良い人選ではなく、公共施設の再編政策と国の財政誘導で統合する学校の問題について詳しい方や一貫校、義務教育に詳しい有識者に学校再編計画を検証してもらうことで、今後、街のコミュニティの形成に大きく影響を与える計画をより良いものにするため、現在進めている再編計画をチェックしてもらいたいです。その過程も公開して、市民が計画に関心を持つきっかけに使ってほしいということです。その中でそちらが読みたいなど、こっちの多分ね、一貫校をアンケート調査で検証している、国の研究というか、国から補助金をもらって研究をしているグループがあるので、その人たちも多分読んでいると思うが、これを読んでいないなら、かなり問題があると思うのですが、読んでいると思うので推進側ではない、良いことばかり言う人ではない人も読んで、もっとより良いものにこの計画をしていった方がいいのではないかといいところがありますので、そういう意味でもアンケートは必要ではないかと思えます。

○請願者 2校になったって、2校に決定するのは5月の広報で知らせたのですよね。ですから、その以後を市民に意見を聞いたことがないので、単純に市民の意見を聞いたらどうですかという案ですが、5月に広報で初めて知ったので噂としてはありましたが、広報として市民に対してやったのは5月が最初では。

○澤田委員 議論の歴史というか、簡単に言うと平成29年から30年、教育のあり方検討委員会があり、それから学校再編計画策定委員会が平成31年～令和2年、そして、パブリックコメントは、その前に市民との意見交換会という歴史をこれまでやってきた経緯があります。それで、私は教育委員会だよりの編集長を長く務めさせていただいておまして、広報にも載る前にそういったことを検討しておりますということは数年前からやらせていただいていた、そういったところを見ていただけなかったのかと思えば悲しくなつたんですけどね。市民への広報がなされていない、遅れているみたいな意見でお話されているように感じてしまう。

○請願者 2校になったということ、広報でやったのはあったと思うんですよ。それ以後、僕がはじめ説明したように、農協の合併とかもあるように片浜小学校が潰れて、坂部の再編等、考えられているのではないかな。もうなくなっているとかね。そういう状況が切羽詰まっているんだなというのもあるけれども、細江小学校とか川崎小学校が無くなるという形で思っているかどうかも含めて、5月に広報が初めてあったので、アンケートをやってくださいということだけなんですけれどもね。アンケートをやったのは、残念ながらこれが最

初ですよ。ワークショップはやっていたんですけれども。けれども、これは知っていますかということで、ちょっと違うような気がするので、次の段階で、2校にしてどうでしょうかという、その下の原発みたいな項目でやって欲しいということなんですけど。行政としては、原発経験もあるし、それほど時間的ロスも金銭的にも財政的にもないと思うので。フィードバックしてもらえたら嬉しいと思うんですよ。確かにあのワークショップとかで、いろいろやったということは知っていますけれども。

○池ヶ谷委員 今の質問の中で5番の説明がまだできてないと思うので、いいですか。

○請願者 止められたのでできませんでしたが、ありがとうございます。

この学校計画、巨大な土木工事があるんですね。すごい大きなお金だと思います。それをどうやって公開していくかという。皆がいくらかかるということも知らないまま決定してしまった。一校でおそらく1,000人規模の校舎だと80億円から100億円かかるんですよ。それをどのように捻出するか、公開質問状だとローンで払うようにお金は返していくということが書いてあり、びっくりしんですが、公共施設の方が、自宅のローンの話とすり替えることが公開質問状の回答にあったが、とにかくそのお金のことを公開して欲しいということです。80億円で、160億円かかるとして、その内容を知らないまま作られると、とんでもないことになってしまうという感じです。体育館とかプールについてかかるお金はどうなんですかね。変な地域だとプール作らないんですよ。市民プールへ行って、あるいはスイミング、そういう感じなんですよ。僕は、やはり、プールはあるべきだと思うんです。ある学校で作ったんだけど、小中が使うので、可動式のプールを作ったみたいなんです。そうすると、可動式のため、小学生低学年の子たちがグーッと一旦上げて、高学年から中学生のとき下げてというようなものを作ったらしいんだけど、故障ばかりで、すごいお金がかかりランニングコストもかかる。2分の1は国がもってくれ、2分の1は先ほどのローンの話と同じなんですけど、市から出さなくてはいけない。およそ80億円という金額をそれに投ずることになるんですよ。それより、今の学校の長寿命化、耐震性とか、リフォームとかそういうものを行った方がお金がかからないと思うんですよ。今、県内の高校はリフォームしています。耐震性をやると。そうするとお金が、コストがすごく減る。県じゃなくても安いですよ。そのようなことも含めて、予算の過程、あるいはどこと契約したとか、そういうのを公開してほしい。

○教育長 池ヶ谷委員、いかがですか。

○池ヶ谷委員 はい。大丈夫です。

○教育長 では、先ほど途中で止まっているところについて、もう少し深く聞いてみたいです。

○吉住委員 はじめの方がおっしゃったことで、全戸へのアンケート調査です

が、私も単純に疑問に思っているんですが、外部委託するんですよね。もしアンケートを取るとなると、アンケートを取る専門業者がいて、普通の方にはやれない作業なので、委託になると思うんです。理想的な話だなと思ったのですが、どれくらい費用がかかるものなのかと単純に疑問を持ちました。見積もりなどあったら教えていただきたい。

○請願者 それについてはわかりませんが、僕は、別に新しいことをやるというのではなくて、牧之原市が原発でもやっているような同じ形で、原発を学校に変えるだけでね。小中一貫校でどうですかというアンケートで、それに早いのではないかとか、それはもうすこし考えた方がいいのではないかとか、いろいろアンケートの項目を考えてもらうんですけれども、それをやるノウハウは牧之原市にあって、別に特段、特別なことをやれと言っているわけではなくて、今までやっている市民意識調査の継続的なのでやるから、それほど予算もかからないのではないかと思うんですけど。

○教育長 市民意識調査のようなものですね。

○請願者 そうですね。市民意識調査と同じような形でやったらどうかという感じですよ。

○吉住委員 素人なのでよくわからないんですけど、作業の話聞いて、私も外部委託をすることがあるんですが、これは必ずお金が発生しますよね。それで聞いてみたかったです。一つのことをするときには必ず予算が発生するということは勿論お分かりで言ったと思ったので、ちなみにどれくらいかかるものと興味を持って。全戸やるということは、すごい分量だと思うのですが。

○請願者 全戸やって、今までの市民意識調査と同じように、市民に関することだから、それは行政側がやったらどうですかという、やってないからやったらどうですかということ。金額を僕らに聞かれても別に。

○教育長 わかりました。それでは吉住委員、また後ほど行政側に対して質問していただきたいと思います。

○寺井委員 5月に2校になるという発表があったと言っていたんですけど、2021年3月の広報に、新しい学区のことや、場所の候補とか出ているんですね。結構早く広報に学校再編のことが、わりとマメに出してくれていると思って見てきて、望ましい教育のあり方の答申というもの、これは2019年の1月です。こういうものも広報で広くやってきて、市民に公開されていると私は思ったのですが、関心の無い人にいくらこうしてくださいと言っても、そこは分かってももらえないというところはあるかと思うんですけど。

○教育長 質問という形でお願いします。

○寺井委員 今日榛原中学校を見せてもらったのですが、校舎がとても古くて暗いんですけども、新しい環境で子どもが学ぶ方がいいかなと思うんですが、それについてはどう思いますか。

○請願者 リフォームで十分。トイレは洋式に全部して、静岡の高校はどんど

んやっていますよ。それで明るくなっています。長寿命化ということの一つの選択肢に加えるべきだと思っています。それから5月というのは、21年の5月の広報まきのはらですよね。それで初めて僕は知りました。その前の21年3月ですか、それで知りました。その前が一昨年(20)の12月に、常会のレジュメみたいなものに、学校再編と書いてあって、これ何って、いやまだもっと向こうの先だからそんなこと考えなくていいよと言ったんですよ。再編と思うと、例えば僕だと、細江と坂部とがくっついて、そこで中学校がのっかればそれは最善とは思わないですけど、そうすると坂部の子たちが仁田坂を上ってね。毎日登校していることが解消されるんですよ。そういうことも含めてやっているんだろうかと思った。そうしたら、いまだに今回もぐりんばるの近くって、坂部の子どもは、雨の日なんか合羽着て登校することが続いてしまうんですよ。それは、坂部に対するすごい軽視だと思います。子どもたちも事故をしたり、いろいろなことを起こしているんです。だから、最初に2校ありきという感じが、私には広報まきのはらの21年の5月号が初めてでした。だから宣伝していると言っても全然知らなかった。

○請願者 これだと思うんですが。確かに、良いんですけれども。原発でやった問題なんですけど、今まで、反対派と賛成派のパブリックコメントは、一回もやっていないんですよ。ここは、パネルディスカッション。だからこのようなどんどんどんどんきても、反対の意見は世の中ではないのという言い方、でも、反対の意見を国会で2015年にやっているときに、約束事がありましたよね。国会議員と国会が2015年に約束草案というものを作ったときに、議事で参考人として呼ばれる中で、賛成派と反対派が参考に当時呼ばれましたけど、そういうまともな理論として反対派あるし、まともな理論として推進派があります。けれどもそのまともな理論の反対派の意見は皆さん知らないから、原発と同じようにまともな反対の理論と、まともな賛成の理論を闘わせた、パネルディスカッションをやってほしいと、ただそれだけなんですけれどもね。

○教育長 ありがとうございます。寺井委員、良いですかこれで。

○寺井委員 はい。

○吉住委員 今の意見をお伺いして、やはり賛成、良いことばかりではなくて、こういう不安な点もあるよというのをなるべくもっと多くの人に知らせることは、市民としてすごくありがたいし、良いことだと思います。

私がお伺いしたいのは、この『小中一貫教育の実証的検証』は、いこつとにあったので私もよく読んでみました。これは本当に第三者的な考え方で中身をよく読んでみると本当に良いことと悪いことって、これ結果なので、とてもいいです。ただ、最後にこれ249の市町村なんですけど、76%が一貫校にして成果が認められるという結論も出ているんですね。それは、この本の中にそのように書いてあったんですけど、それについてはどう思われますか。

○請願者 この調査の人がやったのと、国がアンケート、市町村に取ったやつ

があるので、どちらのことを言っているのか。

○吉住委員 ごめんなさい。私はこの本しか読んでないので。

○請願者 この本の中に書いてあるんですが、その国がやったアンケートの結果も載っていますが、それは教育者が答えているのか、行政が答えているのかを定かにしないアンケートなので、あまり意味がないと書いてあって。

○吉住委員 「この本を読んでいるはずですよ」っておっしゃったじゃないですか。

○請願者 読んでいるから、そこを言っているんですけど。なので、この本で言うと、結局、小中一貫校と小中一貫校にしない場合の検証結果というのは、まだ完全には出ていないし、どうも大規模校にした場合の小中一貫校はデメリットの方が多いよというのが書かれていて、牧之原市の場合は大規模校になってしまうのですよね。今よりも、2校にした場合。

○吉住委員 大規模校ですか。

○請願者 600人規模が大規模校なので。

○教育長 それについては、今の意見に対しての回答ということで。

○請願者 何ページのどこか分かりますか。

○吉住委員 わからない。また、教えてください。

○教育長 時間がかかり延びているため、その質問に対して簡潔にお願いしたいと思います。

○請願者 90%くらいの良いという答えは、ほぼ校長が答えているんですよ。管理職。だから、教員全員アンケートしているわけではないんですよ。確か。だからその立場で良くないとは言えないですよ、校長は。

○教育長 そのような主張だということで、すこし整理させてください。

○池ヶ谷委員 この請願の中の最後のところの再編に関して市民主体の運営を求めるといふところをもうすこし具体的にお聞きしたいのと、一番最初の澤田委員の話にもあったかもしれないですが、この請願の意図というか、今までの決定してきたものを覆しうるものなのかどうかということをお伺いしたい。

○教育長 それでは、その2点についてお答えください。市民主体の運営とは具体的にどういうことか。

○請願者 それはこの1, 2, 3, 4, 5。市民が能動的にこういうことに対して運営するように、教育委員会はいろいろな機会を持つということですね。

○教育長 もう一点、今までやってきたことを覆すかという点については。

○請願者 つくば市の教育委員会教育長も言っていますが、建物ができると、もうしょうがないと言うんですよ。門脇さんというのですが、建物とかそういうものにお金を使っていないなら、いつでも止められると言っている。今はまだ、政策段階で建物の見積もりさえも出ていないということ、整地の見積りも、それほどなっていないんだから、今なら最初から議論し直すことはできると。そのように思っています。

○教育長 池ヶ谷委員、よろしいですか。

○池ヶ谷委員 この請願の中から、今までの決定を覆せるものなのかどうかということが読み取れなかったので、今聞いてみたかったですけれども。ここは対話を求める請願だったと思いますが、その中で今までの決定が、意識調査、アンケートを実施したり、パネルディスカッションをすることで、覆ることを求められているのかどうかということを確認したかったです。

○教育長 そのことについて、いいですか。

○請願者 もう一度、立ち返って欲しいってことです。いろんな自治体でそういうことが行われているんですよ。だから、覆すという言い方はすこし乱暴な言い方ですが、計画を見直す、立ち止まって、見直して本当にお金がどのぐらい掛かってどうなるのかということをおもんに説明して、その上で何とか考えてほしい。

○請願者 確かに、島田とか、川根とか、静岡でも奥の方の学校が合併するという話を聞いて具体的に実施されています。けれども、全国的に見ても、こんなに大きな学校が3クラスあって、学校が合併するという事は、全国でも珍しいです。それは、皆さんもご存知だと思うのですが、だからこそもう一度、学校再編という島田の奥や静岡の奥や、その根拠がいっぱいあるんですけども。確かに事例があんまりないんですよ。3学級と3学級が合併するという。だから立ち止まって、全国的に見ても珍しいケースだから珍しい対応をした方が僕はいいと思うよ。

○池ヶ谷委員 わかりました。あともう一点。これ請願のこともそうですが、何か例えばお互い譲歩するところもあっていいのかなという考えを持っていて、この後、行政、事務局の方で説明があるかと思うんですけども、この中で何か譲歩できるようなところと、そういうところをここの場で考えられるのか分かりませんが、もし考えとしてあればお聞きできたらと思いました。

○請願者 もう一回ストップするというか、最近でも計画をもう一回再検証を、第三者的な立場でもらったものを、市民に公開して、そこでそれを聞いた市民がどう思うかというものを、アンケートを取るというのは一回、公費でやった方がいいと思います。

○池ヶ谷委員 4番をやった上で、1番をやるというイメージですか。

○請願者 デメリットを話し合う機会が、あの中にもなかったように思うんですよ。そこが本来的な問題だと、言ったらいろいろな教育学会がいろいろ言っているんですよ、この問題に関しては。もっと例えば品川区の問題などは、1冊本になっています。そういうものを読んで、あと反対があつて、もう少しなんていうか、変えた方がいいというような意見を持っている専門家も検討委員会の中に入って、話し合えば良いのではないですか。そのやり方が、一方的だったからこのようになっている。報告はしていますと、そちらが一生懸命やっているかもしれないけど、僕らは知らされていなかったという。去年の5月ま

で。

○教育長 わかりました。そういう主張ですね。

○澤田委員 今、池ヶ谷委員からいただいた質問の確認なんですが、イエスかノーで答えていただけるように。要はこの5つの議論の具体的なテーマとか議題については載っていなかったのですが、今のお話だと、進んでいる議論の先、要するに用地選定とか教育内容で、先ほど池ヶ谷さんがお話されたような坂部の坂の問題とか具体的な話について、一緒に話していこうという話ではなく、この委員会を経て議会の承認を得た決定に遡る、この学校再編の根本的な議論まで話を戻して、話し合いたい内容であるということだと思います。

○請願者 はい。そういうことですね。要するに、行政を進めていく中で、フィードバックする機会がないといけないと思うんですよ。すこし立ち止まってフィードバック。この問題は言い方ではなくて、立ち止まってフィードバック、その一番いい段階というのは、予算がつくかとか、何か工事が始まるかとか、いろいろな機会にフィードバックしていきたいですよね。その一つとして、今の時期が一番フィードバックするいい機会ではないかと思うんですよ。

第1回目の検討委員会が金曜日に始まりましたが、そういうところこそ、フィードバックしてやらないとアレと思ったときには進んでしまっているため、すこし立ち止まる時期が今の良い時期ではないかと思うんですよ。それも予算がなくて、市民アンケート、今まで、こんなこと原発では、プルサーマルでやっていたときに、西原市長はちょっと待ったと、原発を3.11の後に止めましたよね。永久停止やったじゃないですか。なぜそうなったかというフィードバックしたからですよ。その時、市民の意見を聞いて、アレと思ってフィードバックしたから、牧之原市の姿勢が変わったんですよ。だからいろいろなときでフィードバックしないとならないのではないですか。御前崎市みたいに、一方でバーって行っちゃうとまずいんだよ。

○教育長 おっしゃっていることは分かりますので、澤田委員、今のでよろしいですか。

○澤田委員 はい。段階を経て進めていて決定をする。それをまた一つ一つ結果を覆していく。物事が進むのだろうかというような、すこし疑問もありました。

○教育長 分かりました。私からすこし質問を。先ほど3番のところが時間の関係で最後まとめてくださいという形で言いましたが、やはり、そのポイントになるのが、いくつか出てくる検証ですとか、対話ですとか、何かそうした言葉が請願者の方から沢山でているのですが、その様々な対応とか検証という、このおっしゃる意味は、今、総合的に聞いていて大体、頭の中には入ってきたんですけど、そこの対話集会、このパブリックコメントに対する回答の検証というのはどういうことか。パブリックコメントを実施して、コメントをいただくばかりで終わるといふこともあったり、それに対して丁寧に回答したりして

いることを、行政サイドがやっているんですが、それを更にどうなんだというところを求めるといふことでよろしいでしょうか？

○請願者 そうですね。回答の文言についても、何か冷たいなと思うんですね。何とか小学校、何とか小学校、何とか小学校がオススメですとかね。そういう回答があったり、同じものを、こんなに沢山あるのに、再掲っていうんですかね。再掲の部分も結構ありますよね、回答のところ。そういうところをもっと丁寧に、もっと本当に向き合って話したいなというそういう意味ですよ。もちろん譲歩しながら。そういう希望です。

○教育長 他にはよろしいですか。これで委員の皆さんからは出尽くしたということですので、これで請願者への質疑を終了いたします。請願者の皆さんは、傍聴席に移動をお願いいたします。

○請願者 ありがとうございます。

○教育長 次に、請願第1号に関する担当部局からの説明をお願いいたします。準備が整い次第始めてください。

○学校再編推進室長 学校再編について、これまでの策定状況や再編計画の推進についての見解を述べさせていただきます。

まず、学校再編計画の策定につきましては、これまで、自治基本条例、及び牧之原市政への市民参加に関する条例に基づき策定する姿勢をもって進めてきております。

具体的には、当該条例において、市民参加手続き2つ以上の方法を併用すると定められておりますが、学校再編計画については、規定されているパブリックコメント、市民意識調査、意見交換会、ワークショップ、審議会等、全てを実施し、また、それ以外に、コロナ渦でも多くの意見を聞けるよう対面とオンラインを併用して進めてまいりました。結果として、市民参加の機会119回、市民参加数4,306人、5,403件の意見を計画に反映し策定しております。

期間としては、牧之原市の教育の在り方に関する方針の検討を含め、5年以上の時間を掛け、その都度、議会はもとより、市民の皆様、関係者の皆様へ経過の報告をし、また、パブリックコメント等の意見を述べる機会も設け、策定してきました。

今年度からは、本年3月に策定しました学校再編計画に基づき、「学校施設整備基本構想・基本計画」の策定を進めており、行政の責任として学校再編計画の実現に向けて努力をしているとともに、今後においても、市民・関係者の多くの意見を聞きながら新しい学校づくりを推進していく予定であります。

また、市民への情報提供としては、これまで実施した媒体の広報紙、ホームページ、LINE、また保護者向けには、まきはぐやチラシ等の活用をしましたが、これに加え、新しい学校づくり検討会や関連する情報については、随時、かわら版のようなものを発行していきたいと考えています。

シンポジウムについては、新しい学校づくりシンポジウムを、本年6月に開

催しております。シンポジウムでは、策定された再編計画の報告をするとともに、新しい学校づくりに向けてのキックオフとしてパネルディスカッション等を行いました。当日は、多くの市民が参加し、その際実施したシンポジウムの評価等のアンケートでは、9年間で子どもを育てることや義務教育学校について前向きに捉え、7割を超える方から良かったとの回答をいただきました。今後につきましても、必要に応じて、学校再編の実現へ向けての意見を聞く場を、シンポジウムという形態にこだわることなく、様々な手法で実施していきたいと考えております。

学校再編計画は、本年、策定されたばかりではありますが、今後、社会情勢の変化などに応じて、推進をしていく過程の中で柔軟な対応をしていく考えております。

牧之原市の現状として、児童・生徒の減少に加え、施設の老朽化への対応、津波浸水想定区域に所在する学校の安全安心の担保、また、社会の変化が大きく加速している中、これからの社会で生き抜くための教育の環境整備は、まったなしの状況です。

現在進めている再編計画の目標年次は、2030年としておりますが、これまでの市民との意見交換会では更に早い実現を求める意見も出されております。

再編計画の実現は、牧之原市の大きな課題の一つとして捉え、行政の責任の下、子どもたちの学び・育つ場所として望ましい教育環境の実現を着実に推進してまいるとともに、通いたい・通わせたい・働きたいと思われる魅力的な学校をつくるため、市民とともに新しい学校づくりを進めてまいります。

○教育文化部長 追加でよろしいですか。先ほど、これから委員からご質問を受けますが、先ほど来の請願者からのご意見の中で少し説明をしていきたいとところがありますので簡単に説明します。

まず、大規模校になる再編ではないかということですが、今、2030年を目標年次としていますが、各学年のクラスは3クラス若しくは4クラスでございますので、適正規模校をつくるということで考えております。デメリットがということでありましたが、パブリックコメント等においては、デメリットの部分、マイナスの意見についても掲載をさせていただいておりますので、良いことばかりを言っているということではございません。

また、職員アンケートについても、不安に思っていることを素直に書いていただきたいということで、校長に聞いたということではなく、全ての教員から聞いて不安に思っていることを出させていただきました。これは不安に思っていること、疑問に思ったことです。そういったことがありましたけれども、ここは今後の再編に向けて、本当に改善をしていかなければならない部分としてアンケートをとらせていただきましたので、そういった活用をしながら、そこを克服するような再編計画を作りたいと考えております。

それから、長寿命化でございますが、これも全校を残すっていう議論は、検

討委員会の中で検討しております。そんな中で2校を残すという結論になったということでございます。その時に長寿命化について、どのぐらいのお金がかかるかというような試算を出した中で議論をしていただいております。

それから、国の財政誘導に基づく計画ではないかというご意見がございますけれども、決してそういうことではなく、主として子どもたちにこのような教育をさせたいという議論から議論をしておりますので、財政的な問題ということではございません。

それから、市民の意見をフィードバックして結果として2校になったということは、今、室長が説明した通りです。

それから、それぞれの意見交換会の際には、公募の委員を募集をしたり、あるいは当日の傍聴については可とするというようなことも行っておりますので、そういった意見を述べる機会であるとか、そういったところは今までも心掛けてきたということでございます。

○教育長 担当部局の説明が終わりましたので、ただいまの説明について、また、先ほど請願者とのやり取りの中で、当局側に聞いてみたいことも含めて、委員の皆さんからご質問いただきたいと思います。

○吉住委員 今、部長が説明をしてくれてよく分からなかったのですが、学校規模ですが、適正規模とおっしゃっていたのですが、一応、当初は大規模校に入るのですか。

○教育文化部長 開校時点での規模が適正規模校、3クラス若しくは4クラスということでございます。

○吉住委員 適正規模ということは、大規模校ではないと考えていいんですか。

○教育文化部長 大規模校ではないです。

○吉住委員 わかりました。

○池ヶ谷委員 請願の一番上、時間を掛けて市民から理解を得たとの判断で二団体の要請を退けましたってところの経緯みたいなのを教えていただければと思いました。あと、この請願にあるものの何て言うか、実施がどの程度できるのかできないかとか、そういうことがあればお願いしたい。

○教育長 一点目は、この請願書のところに書かれている、二団体の要請を退けました、この辺の経緯を詳しく、もう一点は、この要請があります5項目についての行政サイドとしての実現性について、これよろしいですね。

○池ヶ谷委員 はい。

○学校再編推進室長 意見書につきましては、牧之原市の学校再編を考える会から令和4年2月16日にいただきました。パブリックコメントを1月20日から2月18日に行いましたが、その一つとして提出するというので、考える会の方からお話がありましたので、回答につきましては、ホームページ等に掲載させていただいております。

また、いただいた意見の中で本計画に反映させていただいたところがござい

ます。教育や社会の多様な変化に対処していけるような体制をとることの必要性、もう一つ、子どもたちの意見を取り入れるということなどを書いていただいたので、こちらにつきましては、計画の中に反映させていただいております。

また質問状についてですが、こちらについても令和4年3月15日に質問、公開質問状をいただきました。回答方法につきましては、提出された池ヶ谷さんから担当者に確認をさせていただき、メールで回答をさせているところでございます。

○教育文化部長 私からは、その実現性といえますか、そのところに対してお答えします。基本的には今年の3月に再編計画を策定をして、それを実現するため、今、議論、検討をしています。先ほど来のご主張ですと、まずは立ち止まって、一旦立ち止まってというような趣旨のようなお話でございましたので、そのような趣旨のところについては、現時点で行うことは少し無いのかと思っています。

アンケートについては、全戸へということについては、やはり少し無理かなと思っています。

市民意識調査については、例年やっておりますので、こちらは抽出になっていきます。そのため全戸という形ではございませんので、ただ抽出、市民意識調査、それは継続がされるとは思っております。ただ、聞き方として、2校が良いですかというようなことは、多分されないと思っております。全体的には趣旨、こういった趣旨でというところがポイントになると思っておりますが、牧之原市として、行政として、再編計画策定をして、その実現に向けて努力するのが行政の責任だと思っておりますので、そのような意味ではなかなか難しいのかと思っています。

○教育長 池ヶ谷委員、よろしいですか。

○池ヶ谷委員 もう一点、これそのまま実施しないにしても、何かこう譲歩できることであるとか、こういうことを取り組んでいったら、対話で計画ができていくのではないかということがあれば教えたいです。

○教育文化部長 再編計画の実現に向けて、その課題解決のための対話であるとか、更には良いものとするアンケートであるとか検討会であるとか、そういったものは行っていくということで、先ほどの室長が言った通りでございます。そこは様々な手法であるとか、当然アンケートなどの方法もあるかと思いますが、その都度やっていきたいと思っております。そこについて市民の参加は、当然なければいけないとは思っておりますので、そういった配慮もしながら行っていきたいと思っております。

○教育長 他にありますか。

○澤田委員 牧之原市総合計画審議会も参加させていただいております。先ほど大規模校、学校の規模の話ですが、ある意味、何か多くて、今の数字で測ってそれがずっと継続してくれれば良いというのは、総合計画審議会でも人口減

少をいかに食い止めるかが一番先の議論になっていまして、それで教育も子どもがいなくなれば、それぞれ段々減ってきて、今の規模になる。増えればそれに越したことはないわけですし、そういったことについて、例えば、行政の皆さんの横の連携の中でどういう話をされているのか教えていただければと思うのですが。

○教育文化部長 令和3年度、4年度の出生数が200人ぐらいです。200人となると二つの学校を作っても1学年、全部集めて100人少しですので、3クラス若しくは4クラスということになります。ここは事実として、実数として数字が上がってきていますので、そこは減っていくということと、それから当然、市として人口減少を望んでいるものではないのですけれども、実際の出生率であるとか、国の施策の中で国全体のことを考えると、減少をしていくという推計はある程度確実で、2030年、40年、50年という推計を見ていくと、さらに減っていくという形でございますので、先ほど言った大規模校、適正規模校を守っていく努力、市としてのまちづくりであるとか、様々な人口増の対策はしながらも、減少率を減少の角度をなるべく緩めていくという、そうした努力は当然していくということです。けれども開校時の利用数が最低限、最高で維持ができればいいとは思っています。けれども、それがさらに減っていくことをなるべく減らす、そういったことは当然、市として行ってきます。

○学校再編推進室長 細かいところで、一応、開校後20年は複数学級が維持できるという推計にはなっております。

○教育文化部長 単学級にならない、そういう規模校で。教育のあり方のときに2年間、議論をしたときには、やはり単学級であるとか、それなりの子どもたちが一緒の場で教育を受けて、様々な考え方をそれぞれが知ったり意見交換をしたり、そういうことがこれから必要だということの中で、規模が決まってきていますので、そうした中で、どういう再編がいいのかという議論はこれまでしてきたということでございます。

○教育長 澤田委員、よろしいですか。

○澤田委員 ありがとうございます。

○寺井委員 請願の中にデメリットを話し合う機会という要請があったのですが、何かそういうものを、デメリットだとか、あと反対意見だとか、そういうものを吸い上げる方法は、何かやれそうなことはありますか。

○学校再編推進室長 これまでもあり方の頃から、あとは学校数を決めるときなども、メリット・デメリットの話し合いを、意見交換や審議会の方がしてくださってはおります。先ほどの教職員のこともありました通り、昨年度、アンケートを行ったのですが、今年度8月に教育講演会を開催いたしまして、先生方の研修会を行いました。義務教育学校の経験があるの先生に講師として来ていただき、その後、小学校・中学校の先生方が一緒に話し合いをするなど、お互い違う立場で情報交換などをしていただき、その後アンケートといいますが、

少しどうだったかということをお願いしたのですが、すごくいい機会になったと、前向きになれたと、そのような回答をいただいたので、去年アンケートを行ったときよりも、デメリット・メリットが少しずつ浮き出され、解消できているのかと思っております。これからの学校施設などを検討していく中で、学校づくり検討会の中でも検討委員の皆さんだけではなく、関係の皆さんから意見をいただいて、それをたたき台にして、検討していくのですが、多くの皆さんからその立場で内容を考えていただき、メリット・デメリットを考えていただくような機会にできればと思っております。

○寺井委員 請願の人たちのような反対の意見をもっているものを吸い上げる方法、そういう方法は何かあるのか。

○教育長 先ほど請願者が主張された、いろんな再編に対する不安ですとか、疑問点だとかそういうところを取り入れて、対応していくかということですか。

○学校再編推進室長 市民参加条例にあるのは市の計画、大事な計画を立てるときに、市民がそれに参加するというのが市民参加条例でありますけれども、この策定したものを今後、周知していくということも、私達の責任であると思うのですが、これから、この計画を周知していく中で、皆さんに不安に思っていることなどを、デメリットなどあれば、私達が気づかない部分もあるかもしれないし、お話することで解消することがあるかもしれないので、いろいろなところに周知に出掛けていくということも大事だと思っております。

○吉住委員 似た意見かもしれないのですが、現場の校長先生などに聞くと、問題点も結構あるという認識です。私もそれは理解しているので、もう一歩進めて、こういうメリットがあるというだけではなくて、そのデメリットを少し深く掘り下げて両者が考えればもっと、小中一貫校の目的は子どもたちのためにやっていることなので、そのような機会も、面倒だと思うのですが、もしかしたらその議論が良い方向に、こうすれば解決にもなるかもしれないので、少し簡単に提示するだけではなくて議論を深める、そういう会議もやってもらえますか。

○教育文化部長 まさにそのデメリットなり、不安であったり、課題であったり、それを出していただかないと、これからの新しい学校に反映できませんので、そういった場を置き、どうしたら解決できるだろうかというところを、例えば、学校の先生方であれば、学校の先生方との対話というか、そういう場を設けていきたいと思っております。

○教育長 他にはよろしいですか。それでは、質疑をこれで終了したいと思います。

それでは、請願者からの質疑、また行政、担当部局からの質疑、これを踏まえまして、委員間で討議をしたいと思っております。それぞれ委員の皆さんからご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。感想等も含めても結構ですので、これについてどなたか口火を切っていただければと思いま

す。

○池ヶ谷委員 自分が感じたのは、一口に市民と言っても多様な人がいるというのは頭でわかっているんですけど、それぞれ市民のイメージが多分違うのかなという感じを受けたのが一つと、あり方検討に関わらせてもらったことから、自治基本条例や市民参加条例にのっとなってプロセスを踏んできたのは、その通りだと思っていて、そのプロセスについては、参加の機会であるとか、必要な周知の仕方だとかは、十分ではなかったかもしれないですけども、やってきているというのは感じています。その中で、十分でないと感じる人も少なからずいるから、それは今後も、閉じてしまうのではなくて、もっとオープンにしていく必要、対話の機会であるとか、広報の機会というのは必要なかと思いました。

○澤田委員 今、池ヶ谷委員がおっしゃったことで、やはり伝えていく、知らしめていくことは難しいと感じました。何度も早い時期から教育委員会だよりで特集を組んで、議論をしていること考えているということをお知らせしていたんですけど、市民の皆さんに届けるということは、簡単なことではないんだということをお話をして、今日、皆さんのお話を聞いて改めて痛感しました。今後の課題として、わかっている側はやはり本当にこれでよしという限界がないくらい、しっかりと伝えていく努力をするべきなのかと改めて感じました。

○吉住委員 私は慎重に進んでいると思います。私は、普通の民間の人間からすると、丁寧すぎるというところがあるぐらいなんですけど、反面、今年、幼稚園に入る子どもたちのお母さん三人から言われたただけなんですけど、自分たちの子どもはもう間に合わないと、この一貫校に、それでがっかりしているんですね。母親から見ると、新しい設備で新しい学校で学ばせたいと、もちろん問題は中身なんですけど、だから、そうか、そのように自分の子どもが間に合わなくて残念だと、だからもっと早く進めてもらいたいという意見なんですけど、それどころではないなという。これ以上、ピッチを進めることは、行政側もとても無理だろうという意見もあります。本当に市民の意見は、多様だと思った。

でも、これから入るのは子どもなので、子ども主体に子どもの学校生活をより良くするために、この会はあるわけだから、それを徹底して、自分の理想とか意見ではなくて、子どもにとってどうかという視点を、私みたいに小さな子どもはいないような、特にそれは若い母親の考えをよく聞いてあげるといったことは大事だと思いました。

○寺井委員 私も吉住委員と同じで、やはり目指すところは、子どもたちにより良い学びをとるところが目標だと思うので、それに向けて進めていくということが大事だと思いました。

○教育長 それぞれ感想をいただいたのですが、請願のところに戻ってもらい、今、両者からいろいろ主張を言っていただいて、委員の皆様、それを基に今回

の請願について、それぞれ個人の考え方というか、それについて話し合いを深めたいと思いますが、その点でどうですか。

○澤田委員 私も今回、請願して下さった方たちに、最後に確認させていただきたいのですが、正直議論を今年の3月の決定以前に戻してということについては、正直、賛成できないと私自身は強く思いました。

○教育長 それに関連して、私は違うというか、それぞれ個人的な考えというか、委員の皆さんのお考えをお聞きしたいのですけれども。

○池ヶ谷委員 自分は、この対話を求める請願ということで、もちろんこれからも対話をしていかなければなりませんし、今回、反対意見もしっかりと聞いてそれで判断、いろいろなことを判断できるような体制を整えていくという必要があると思っています。先ほど、事務局の方から具体的に学校をやっているときに、不安などを解消したりと、課題を解消したりだとかというところで、そういうものを取り入れてくのは必要だと思っていて、澤田委員が言われたとおり、3月以前のところを議論するのではなくて、これから今年度、来年度で決めていく基本構想の中を不安に思っていることや、課題を持っているものを一つでも解決できるように、努力していく方に力を入れた方がいいのかと考えました。

○教育長 池ヶ谷委員の考えは分かりました。他にはどうですか。

○寺井委員 請願をいただいて立ち返るということが、少しはこれで見直すというか、今までやってきたことを振り返るという機会をもらったという意味では、大事な話し合いだったと感じています。でもやはり未来に向けて進んでいくという、から今日、大事な機会をいただいたので、これを基にまたこれから進めていく中で、今日のこのような市民の意見を入れるとか反対、デメリットなどを考えるということをもっと慎重に入れながら、これから進めていくという方向にしていっていいのではないかと思います。

○吉住委員 今まで池ヶ谷委員が参加してきた教育を考える会など、ずっと見てきているんですけれども、やはり私が頭にあるのは、地区長さんや地元の人たち、最初はなんでこの会に出るんだみたいな方たちが多かったんですけれども、その人たちとすごく何回も、地区長は今回、いろいろな会でいろいろな方が関わっていて、いろいろな人も、こういう検討会に出すというのは、行政も立場としてすごくいいやり方だと思いました。一人の人が最初から最後までずっとやるのではなくて、そうすると市民の数が増えることになる、知ってもらおう。そういう人たちが最初は、教育は自分に関係ない、なんで自分がこの席に呼ばれたのか分からないみたいな地区長さん、区長さんたちがいたんですけど、何回も見ているうちに段々、初めは教育の話だったのに、やはり自分たちの町は、こうしたいというのが若い人にも出てきて、ここまできているので、私は地区長さん、区長さんたちにこれだけ合意を得てきて、ここまできているのに、もう一回元へ戻って、請願者の皆さんの意見を聞くということは、私はもうあの人たちの顔が頭に浮かんでしまい、ここまできて何だったんだと言われると

思うと採択はできなと思いました。

○教育長 一通り伺いましたけれども、他の委員の皆さんの発言を聞いて、何かありますか。

○教育長 意見が出尽くしたということでもありますので、これで討議を終わりにします。それでは、これを採決しなければならないということでもありますので、採決したいと思います。

請願第1号について採決を行います。委員さんの意思をはっきりさせるため、挙手による採決でお願いしたいと思います。

本請願を採択することに賛成の方は挙手をお願いいたします。

[挙手なし]

○教育長 挙手がありません。従って、本請願は不採択となりました。

以上をもちまして、請願第1号学校再編について対話を求める請願の審査を終了いたします。ありがとうございました。

報告第16号 令和4年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について

(事務局より説明)

2世帯3名から申請があり、質疑・意見なく承認された。

報告第17号 令和4年度特別支援教育就学奨励費補助金対象児童生徒の支弁区分の決定について

(事務局より説明)

1世帯1名から申請があり質疑・意見なく承認された。

議案第14号 牧之原市立萩間小学校の主任等の変更について

(学校教育課長より説明)

質疑・意見なく承認された。

議案第15号 令和3年度牧之原市教育委員会の自己点検・自己評価報告書について

(教育総務課長より説明)

質疑・応答後、承認された。

○吉住委員 議案第15号については、承認します。丁寧にきちんとやってくれているため、次回の定例会で話し合えたらと思いますが。

○教育長 事務局で調整をお願いします。先ほど、英語のところを一つ取り上げましたが、ALTと時間数、英検を受ける人は確かに増えていますが、一方で実際に外国人やALTと話をすると一歩引いてしまう。そこに大きな課題があります。課題を解決していかなければならない、だからこれは単に毎年やっているのではなく、どういうところに成果があり、どういうところに課題

があるかということ、教育委員の皆様に見ていただいて、次年度の政策、これは1年遅れになっていますが、令和5年度に向けて、取り組んでいきますので、予算や学校の教育課程などに反映できたらと思います。

○池ヶ谷委員 評価項目を変更したものがわかるものがあればお願いしたいです。

○教育長 次回こちらから提供をします。

(閉会時刻 午後0時20分)